

令和7年度

熊本県立大学 環境共生学部

環境共生学科 食健康環境学専攻

一般選抜(後期日程) 個別学力検査

小 論 文

問題用紙

- (1) 問題用紙は、この表紙を含めて6ページあります。
- (2) 答えは、必ず解答用紙に記入しなさい。
- (3) すべての解答用紙の所定の欄に受験番号、氏名を記入しなさい。
- (4) この問題用紙は、持ち帰って結構です。

(入試問題は， 4 ページからです。)

(入試問題は， 4 ページからです。)

次の問題Ⅰおよび問題Ⅱに答えなさい。

**問題Ⅰ** 我が国では、人口の急速な高齢化に伴い骨粗しょう症の患者が年々増加しつつある。WHO（世界保健機関）では「骨粗しょう症は、低骨量と骨組織の微細構造の異常を特徴とし、骨の脆弱性が増大し、骨折の危険性が増大する疾患である」と定義している。表1のとおり骨粗しょう症の危険因子は、除去できない危険因子と除去できる危険因子とに大別される。また、骨量は男女ともに年齢によって変化するが、特に女性は、図1に示すように閉経（月経が永久に停止した状態）に伴って骨量が著しく減少する。

骨粗しょう症の発症予防としてどのような対策が効果的と考えられるか、表1および図1から読み取れることを踏まえたうえで、あなたの考えを500字程度で具体的に述べなさい。

**著作権保護の観点から、図表は掲載していません。**

出典：日本骨粗鬆症学会，日本骨代謝学会，骨粗鬆症財団「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版」p.50 図21より作成

**著作権保護の観点から、図表は掲載していません。**

出典：日本骨粗鬆症学会，日本骨代謝学会，骨粗鬆症財団「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版」p.14 図8

## 用語解説

脆弱性（ぜいじゃくせい）：もろくて弱い性質や状態。

危険因子：ある病気や状態を引き起こす確率を高める要因。

家族歴：家族の病気の有無。

最大骨量：骨量の最大値。骨量は20歳前後で最大値を示し，40歳ごろまでは最大値を維持する。

**問題Ⅱ** 厚生労働省が策定した健康日本21（第三次）において、国民の健康増進の総合的な推進を図るための基本的な方針に、野菜摂取量の増加が挙げられ、20歳以上の（1人あたりの）野菜摂取目標量を350g/日以上としている。厚生労働省が行った令和元年国民健康・栄養調査によると、日本人（20歳以上）1日あたりの平均野菜摂取量は、男性288.3g、女性273.6gである。図2は、平成27年～令和元年の国民健康・栄養調査結果から、1日あたりの野菜の摂取量が350g以上の者の割合を示したものである。

問1 図2から読み取れることを、200字程度で具体的に述べなさい。

問2 1日あたりの野菜摂取量を増やすためには、どのような対策が効果的と考えられるか、あなたの考えを400字程度で具体的に述べなさい。

**著作権保護の観点から、図表は掲載していません。**

出典：厚生労働省「平成27年～令和元年 国民健康・栄養調査報告」より作成

<https://www.mhlw.go.jp/content/001066903.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/001066884.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/001066645.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyoudl/h27-houkoku.pdf>